

ひのっ子、走る、走る、走る

走力向上に向けて



10月12日、東京都スポーツ教育推進校の日野第六小学校に「一日校長先生」として、ロンドンオリンピックマラソンに出場した藤原新選手が来校しました。全校児童が参加した講演会では、「コツコツ少しずつ毎日走ることが大事だ」「人それぞれのゴール(目標)に向かって自分のために走ることが大事だ」ということを教えていただきました。三、六年生までの交流授業では「鬼ごっこ」や「一分間追い抜き走」を行って、たくさんの

汗をかきました。また、藤原選手に書いた作文を児童が発表しました。児童にとって忘れられない貴重な体験ができた一日でした。

日野市では、走力の向上を目指して、全小・中学校で「一校一取組」を行っています。その他、多くの学校で、市内にあるミニ陸上部のコーチ等を講師として「走り方教室」を実施するなど、選手と直接交流して走ることや体を動かすことの楽しさを教えています。



(学校課)

まちの魅力を伝える

図書館分館の日野図書館では、平成18(2006)年、近隣住民の方々と一緒に、日野宿発見隊を結成し、地元の旧日野宿地域のまちの再発見活動を行ってき

ました。子ども達にも、自分達のまちの魅力について、学んでほしいと働きかけています。活動のいくつかを紹介します。

【一中道徳授業地区公開講座】
発見隊の市民が講師として、昔のまちの写真や映像を楽しく解説します。地元ならではの話が満載です。

【絵本「ひのっ子日野宿発見」】
「子ども達にもわかりやすい地元の歴史の本を」という思いから刊行した絵本です。本は市

内の図書館または、日野宿発見隊HPでご覧いただけます。

【日野の用水であそぼう！】
豊かな用水が残る日野。毎夏、子ども達は魚やザリガニを採ったりして思いっきり遊び、豊かな自然と触れ合っています。

ひのっ子百物語(仮企画)

現在、日野市にまつわる昔話・伝説の百話収集を企画しています。子ども達に、日野市にまつわる話を伝えていきたいと思えます。

(中央図書館)

第50回日野市市民体育大会



ロードレース競技

【種目】

日野市民体育大会ロードレース競技を開催します。『ふれあい橋』から、冬景色に包まれた浅川の河川敷を走るコースです。日ごろの練習の成果を発揮する場として、たくさんの子も達が入賞を目指して走ります。

ひのっ子ランナーたちへのご声援をお願いします。

【日時】

12月1日(土) ※雨天決行

午前8時受付

9時20分スタート

【スタート・ゴール地点】

浅川スポーツ公園グラウンド

【コース】

浅川周辺コース(ふれあい橋周辺)

小学生男子・女子

(5年生・6年生) 2 km

中学生女子 2 km

中学生男子 3 km

壮年の部

一般の部

【表彰】

小・中学生は、8

位までの入賞者へ

賞状を授与



【問合せ先】 日野市体育協会

電話582-5770 (文化スポーツ課)

おせんぼんまつり



平成25年1月20日(日)に、ひのっ子シェフコンテストを開催します。市内小学校4年生から6年生までのみなさんから、日野産の食材を使って実際に学校給食で食べてみたい献立を募集します。書類審査で選ばれた児童(またはグループ)に、本選のコンテストで調理をしていただきます。優勝作品は小学校の献立に採用される予定ですので、この機会に「給食にこんなメニューがあったら嬉しい」というオリジナリティーあふれる料理に挑戦してください。

○なお、応募ご案内は、学校を通じて対象児童全員にお配りしてあります。

【問合せ先】 中央公民館
電話581-7580 (中央公民館)

市制施行50周年記念・日野市郷土資料館特別展

「日野の明治・大正・昭和」
いま振り返る日野の近代

潤徳小や平山小からお借りした貴重な資料も展示しています。12月9日まで。会場は新選組のふるさと歴史館です。月曜休館。

好評中です

郷土資料館企画展 「異聖歌と新美南吉」



力添えて、最初の童話集『おじいさんのランプ』が完成しました。南吉は、翌18年3月22日に、喉頭結核のため、29歳の若さで亡くなったので、南吉の生前刊行された、唯一の童話集となりました。

【異聖歌の奔走】
南吉は、亡くなる前に、異聖歌に未発表の原稿を託し、後のことをすべてお願いしたと聖歌に頼みました。南吉の才能を高く評価していた聖歌は、南吉の作品を世に出すことに奔走し、戦後の活動の多くの時間を費やしました。

新美南吉(1913-1943)は、宮沢賢治とともに、日本を代表する童話作家です。来年7月で、生誕百年を迎えます。日野市で後半生を過ごした童謡詩人異聖歌と新美南吉の関わりを紹介します。

【異聖歌と新美南吉】
昭和6年の12月、愛知県半田から上京してきた南吉は、いきなり聖歌の下宿にやってきました。南吉は、聖歌が主催していた童謡同人誌「チチノキ」の会員でした。南吉18歳、聖歌26歳の時のことです。意気投合した二人はすぐに親しくなりました。南吉は、聖歌の勧めで翌年の春から「東京外国語学校(東京外国語大学)の英文科で勉強することになったのですが、聖歌はわざわざ家を借りて、南吉の世話をすることにしました。南吉と聖歌の友情は、聖歌が結婚してからも、卒業後病を得て半田に戻ってからも、変わることなく続いていきました。昭和17年10月には、聖歌の

力添えて、最初の童話集『おじいさんのランプ』が完成しました。南吉は、翌18年3月22日に、喉頭結核のため、29歳の若さで亡くなったので、南吉の生前刊行された、唯一の童話集となりました。

【異聖歌の奔走】
南吉は、亡くなる前に、異聖歌に未発表の原稿を託し、後のことをすべてお願いしたと聖歌に頼みました。南吉の才能を高く評価していた聖歌は、南吉の作品を世に出すことに奔走し、戦後の活動の多くの時間を費やしました。

数冊の童話集のほか、『新美南吉童話全集』、『新美南吉全集』の刊行など、今日南吉の作品が多くの人に読まれるようになる基礎を作ったのは、異聖歌の努力によるものです。そして、聖歌の活動は、半田市の「新美南吉記念館」の開館にもつながっていききました。同館の常設展示には「南吉の恩人異聖歌」というコーナーが設けられています。

【「こんぎつね」の教科書掲載】
「こんぎつね」は、昭和7年1月号の『赤い鳥』に掲載された作品です。南吉が、半田第二尋常小学校で代用教員をしていた時に、子どもたちへ語って聞かせた作品です。今では南吉の代表作となりましたが、ちょうど南吉と聖歌が出会ったころに発表された作品だったわけですね。

南吉は、「日本中の子ども達に自分の作品を読んでもらいたい」と願って亡くなりました。

南吉の思いをなんとか叶えてやりたいと思っていた聖歌は、昭和31年に大日本図書の子書編集委員になった時に、「こんぎつね」の掲載を推薦しました。教科書に掲載されるということは、多くの子ども達とその作品を読むことにつながります。やがて、「こんぎつね」の掲載は、他社の教科書にも広がり、現在では採用されている全社の小学4年国語教科書に掲載されています。

日本人の半分以上の人が、「こんぎつね」を学んで大人になっています。日本中の子ども達に読んでほしいと願った南吉の思いは、異聖歌によって叶えられたといってもいいのではないのでしょうか。

異聖歌と新美南吉が互いに寄せあった深い友情と信頼を、「こんぎつね」を学ぶ日野の小学生の皆さんにも、ぜひ知っていただきたいと思えます。

【会期】 11月3日(土)～12月28日(金) 午前9時～午後5時(月曜休館・12月24日は開館、25日休館) 無料

【会場】 郷土資料館展示室(程久保50番地)12月1日～16日まで、新美南吉記念館借用の展示キットを展示します。南吉の生涯や作品のDVDも随時上映します。

【問合せ先】 郷土資料館
電話592-0981